

# Computer Report

Vol.59 No.11 1 1 月号 (通巻 782 号)

## はじめの言葉

■死者 88 名、行方不明者 7 名の犠牲者を記録した台風 19 号による被災被害は、文字通り未曾有かつ悲惨な大災害となった。地球温暖化が背景にあると指摘されている昨今の異常気象が産んだ台風である。対処療法的な災害対策だけでは対応できない問題だと繰り返し指摘されている。毎年、世界のどこかで大災害が繰り返し発生している。しかも、その規模の大きさは年を追って大型化してきている。被災者のご冥福を祈る。

■世界の工場と言われ世界第二位の経済大国となった中国、そして世界第一位の経済大国アメリカの二国が、世界的な地球温暖化対策に背を向けていることは、周知の通り。災害被害者を世界的規模で数多く出しながら、その遠因だと言われる原因対策から逃げている経済大国の姿勢に憤りを感じざるを得ない。大国二国のトップには真摯な反省とともに、国家運営の責任者としての責務遂行の自覚を改めて求めたい。

■ラグビー世界大会での日本チームの大活躍には日本全国民が感動し、国中が沸いた。予選リーグ戦全勝でリーグトップとなり、我が国のラグビー史上初の 8 強入りを果たした瞬間、日本は、文字通り、ひとつになった。そして、日本チームの快挙を国中が称えた。惜しくも決勝トーナメントでは因縁の相手国南アフリカに敗退したが、チームの健闘を称賛する国民の気持ちは最高潮に達した。文字通り、歴史的快挙だった。

■二度目の東京オリンピックまで 9 ヶ月となった今になって、最終日種目となっているマラソンコースの変更が、突然発表された。東京から札幌に移すというものだ。東京コースでの選手の最終選考レースが行われ、出場選手が決まった後だけに、日本中から疑問の声が上がった。一体、誰が、どのような経緯で、こういうことになったのか。小池東京都知事にとっても寝耳に水だったとのことで、大騒動になっている。

■肝心な時にはいない、役割を果たさなくてはならない時に雲隠れしているような人物は結構多い。今回の騒動の中心人物、その張本人らしいと思しき人物として浮上したのが、東京五輪組織委員会の森喜朗会長である。この仁が登場すると、いつも騒動になる。今般のラグビー世界大会から身を引いたからこそスムーズな運営ができたと思えるほどの人物である。今からでも遅くはない。頼むから表舞台から退いて欲しい思いがする。

■台風 15 号 / 19 号の大災害に配慮、天皇御即位を披露するパレード「祝賀御列の儀」が延期された。現行憲法下における天皇陛下としてお二人目の天皇御即位である。日本という国家としての在り方を問う現行憲法の改正論も活発になっている中での御即位である。憲法の改正反対 / 憲法を守る立場から、御即位を「祝わない」と主張する勢力も存在する複雑な状況でもある。国家斉唱に反対する声もある。

■古い話になる。1973 年 10 月 13 日、英国のツイッケンハム ( Twickenham ) で遠征していた全日本ラグビーチームの対外試合を観戦した。対戦チームは、「イングランドアンダー 23」だった。結果は日本チームの大敗だった。対戦前に行われた両国国歌斉唱は、国外で聞いた初めての「君が代」だった。感涙していた。今般大活躍の日本チームが謳った「君が代」である。国民はひとつになる時がある。その時、国歌がある。(藤見)